

今年の漢字は「金」になりましたが、2016年はどんな1年でしたでしょうか？ 来る年が皆様にとって良い年でありますように ☆。.:\*。°  
現在会員登録数 2,208 人さま。次号は新年 1 月 20 日発行の予定です／

☆。.:\*。 ★。.:\*。 ☆。.: 目次 \*。 ☆。.:\*。 ★。.:\*。

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 76

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

☆。.:\*。 ★。.:\*。 ☆。.: \*。 ★。.:\*。 ☆。.:\*。 ★。

■-----■  
【1】お知らせ ☆

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品が出版されました  
当財団主催「第32回 日産 童話と絵本のグランプリ」（平成27年度実施）の大賞2作品が、BL出版より出版されました。

『日曜日の小さな大ぼうけん』愛川美也／作 童話部門大賞作品

みやざきあけ美／絵（第29回絵本部門大賞受賞者）

『ちかしつのなかで』横須賀香／作・絵 絵本部門大賞作品

詳細、表紙写真はこちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 年末年始休業日のお知らせ

当財団の業務は、12月28日（水）から1月4日（水）まで休業とさせていただきます。ご了解ください。

通常の業務日は、火曜日～土曜日 午前9時～午後5時30分、

休業日は、毎週日曜日・月曜日、祝休日、年末年始ほかとなっています。

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■-----■  
【2】コラム ☆

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『世界を7で数えたら』 ホリー・ゴールドバーグ・スローン/作

三辺律子/訳 小学館 2016年8月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：12歳のウィローは「7」という数字にこだわり、天才的な頭脳を持つが、友だちは一人もおらず、庭作りが好きな個性的な少女。養父母が突然交通事故で亡くなり、天涯孤独の身となったところをスクールカウンセラーのデル、デルのところに通っていたクアン・ハと妹で付き添いマイ、二人の母親パティ、タクシー運転手のハイロ等に助けられて少しずつ生きる希望を取り戻す。

○：少ない登場人物でアメリカ合衆国の今を見事に切り取っている作品だと思いました。

Y：主人公のウィローは高機能広汎性発達障害と考えられ、スクールカウンセラーのデルはだらしない生活を送り、いい加減にカウンセリングの仕事をしています。クアン・ハの家族はベトナム系で、母のパティはネイルサロンを営んでいてサロンの裏にある倉庫に住んでおり、タクシー運転手でメキシコ系のハイロは学校へ行って医療技術者になりたいと考えています。

○：デルは理屈だけは一人前だけれど仕事ができないタイプで、思わず「こんな人いる」と思いました。パティの実際的できばきと仕事をこなす様子、ウィローを気遣うハイロなど、登場人物はいわゆるマイノリティの人たちで、今の生活にも生き方にも不満と不安を抱えています。それらの人々を個性的かつユーモラスに描きながら、彼らの根っこにはあった楽天主義をうまく使って何とかハッピーエンドに持って来ているところが「よくやるよ!」といい気分になりました。

Y：ウィローとパティがデルのアパートへ行った時、洗っていない下着が何百枚も出てきた様子など笑ってしまいました。子どもだけでなく、大人も成長する点に納得がきました。また、ウィローが児童養護施設に行かなくても済むようにデルとパティの家族が結託してソーシャルワーカーに嘘をつき、そのために、とんでもないドタバタが起こる点がおもしろかったです。

○：この作品は、ウィローが本当の両親を知らないという設定の「新版・孤児物語」です。アメリカ児童文学の王道をいく作品という読後感をもちました。

Y：ウィローが養父母に守られていたところから、「7」へのこだわりを持ち続けつつ、自分から他者と関わるようになる成長物語であり、新しい家族を見つける物語でもあります。コミュニケーションや多様な家族のありようを示している点が現代的だと思いました。

\* 今回のゲストは当財団の三宅興子特別顧問（○）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第16回「雪渡り」(その2)

音楽が聞こえる

前回メルマガ（NO. 75 参照）のぺ吉執筆の「雪渡り」を読む私に聞こえてきたのは、キックキックトントンキックキックトントン——狐の足ぶみ、そして、狐といっしょに踊る四郎とかん子のステップです。キックキックトントン——これは、宮沢賢治独自のオノマトペ（擬声語・擬態語）の一つですが、かたくなった雪をきしませる足音が聞こえてくるようです。

〈雪がすっかり凍って大理石よりも堅くなり、空も冷たい滑らかな青い石の板で出来ているらしいのです。（中略）

こんな面白い日が、またとあるでしょうか。いつもは歩けない黍の畑の中でも、すすきで一杯だった野原の上でも、すきな方へどこ迄でも行けるのです。〉

「雪渡り」は、ふだんの世界にはあるはずの境目がなくなる、こんな特別おもしろい日だからこそ、四郎とかん子が雪を渡って、小狐紺三郎と出会える物語です。雪沓（ぐつ）をはいた2人は、「堅雪かんこ、凍み雪しんこ。」と唱えながら、一面雪の野原を歩いていきます。

一般の語彙の音と意味の関係には必然性がないのに対して、音と意味につながるのがあるオノマトペは、「音象徴」とも呼ばれます。日本語学者の石黒圭氏は、「感覚的なイメージを想起させる音が意味と結びついていること。これが音象徴であり、オノマトペの持つイメージ喚起力のみなもとです。」と述べています（「オノマトペとは」2008年）。「堅雪」—「凍み雪」、「かんこ」—「しんこ」と韻が踏まれる唱えことばにも、イメージを呼び起こす、生き生きとした力があります。

オノマトペには反復形が多いのですが（キックキックトントン）、「雪渡り」では、「堅雪かんこ、凍み雪しんこ。」も何度も繰り返され、さらに、ことばが加わっていきます。四郎とかん子が柏の森にむかって「堅雪かんこ、凍み雪しんこ。狐の子あ、嫁ほしい、ほしい。」と高く叫べば、キシリキシリ雪をふんで、白い狐の子があらわれ、「四郎はしんこ、かん子はかんこ、おらはお嫁はいらないよ。」とこたえるのです。ことばから音楽が聞こえ、唱えことばは、歌に転じます。歌にあわせて、3人が踊り出します。キック、キック、トントン。キック、キック、トントン。——雪原のミュージカルのはじまりです。（馬車別当）

（本文の引用は、新潮文庫版『注文の多い料理店』によりました。）

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 76

\*\*\*\*\*

その10 学校でのおはなし会（8）先生からテーマの依頼があった場合

ボランティアの方からよく受ける相談に、先生から依頼を受けたというものがあります。今回は、小学2年生に「戦争」をテーマにおはなし会をして欲しいという依頼について検討したいと思います。

まず、依頼には必ずしも答える必要がないということが大前提にあります。そもそもボランティア活動の目的は、先生の補助をすることではなく、自主

的に子どもたちに読書の楽しさを伝えることです。そこで、自分たちが子どもに伝えたいという本を自主的に選ぶことに意味があります。

それでも、せっかくの依頼で、できることなら希望に応じたいと思われたら、次にその依頼内容について検討することになります。今回の場合、テーマが「戦争」というとても深刻かつ重要なテーマです。それも小学2年生向けというと、読める本が限られてきます。

また、本を読むだけでなく、子どもの理解を促すためには、その本を子どもがどう受け止めればいいのか、本を読んだ後に対話が必要な本も多くあります。グループの中で、この対象、テーマでぜひ伝えたい本があり、読むだけで伝わると思われる場合は依頼に応じれば良いと思いますが、テーマの難しさ、適当な本を選ぶことの難しさ、フォローができないことの不充分さを感じる場合には、決して無理をする必要がないと思います。

では、断る場合、どうすればいいのか。まずは、ボランティアの目的を先生に伝えること、そして、テーマや対象学年についても理解を得、先生が小学2年生に伝えたい「戦争」をイメージした本を先生自身が探して子どもに読んだり、紹介したりすることを提案するのがいいと思います。また、学校司書や公共図書館の司書に相談することができることや、ブックリストの存在などを伝えることも可能だと思います。

\* 次号は「その10 学校でのおはなし会(9)」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

現在公開されている映画「この世界の片隅に」を観てきました。広島、呉を舞台に昭和8年から21年までの主人公すずの暮らしが描かれた、この史代原作のマンガ(双葉社 アクションコミックス 全3巻)が映画化された作品です。

映画は、絵を描くことが大好きなすずの広島市江波での幼少時代から始まります。海苔を届けるおつかいの途中で人さらいにさらわれそうになったり、祖母の家で会った座敷童子に優しくしたり、すずの優しくおっとりとした性格が描かれます。昭和19年、18歳で呉の北條家に嫁ぎ、それまで面識のなかった夫・周作、義父母、義姉、姪との慣れない土地での生活が始まります。

アニメーションは、建物や路面電車などの街並みも当時の様子がリアルに描かれています。北條家の周囲の野山の風景はのどかで、日常の食事の工夫や隣組など、戦時中の暮らしがぐすっと笑える場面を織り込みながら描かれていて、戦争中にも人々は普通に暮らしていたのだということに気がつき、驚きました。

戦争の実感がないまま観ていると、呉にも爆撃機が飛んでくるようになり、爆弾が落ちる音や防空壕の中などの様子があるように、恐怖を感じました。一緒にいた姪を亡くし、自らも怪我をしたすずが、終戦の報せを聞

いて怒りを爆発させる場面は、悔しさや悲しみを感じ、とてもいたたまれませんでした。

原作にあったエピソードが映画では描かれていない部分もあり、ずすと周作の関係性が少し違って感じられました。戦争は普通の暮らしと隣り合わせにあり、ふと気付くと巻き込まれてしまっていること、そんな中でもしぶとく生き続ける人の強さを感じました。たくさんの印象深い場面を思い出しながら、戦争について、平和について考え続けていきたいと思った作品でした。  
(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介 ☆

---

- 公開講座 宮沢賢治学会地方セミナーin 神戸  
「宮沢賢治と音楽～いちめんに降りそそぐ億千の光の征矢～」  
日 時：12月23日（金・祝） 午後1時～4時45分  
会 場：甲南女子大学芦原講堂（神戸市東灘区）
  1. 講演 「宮沢賢治の歌曲をめぐって」  
講師：浜垣誠司（精神科医）
  2. 講演 宮沢賢治の音楽「ゴーシュに託した賢治の夢」  
講師：佐藤泰平（立教女学院短期大学名誉教授）
  3. ピアノ演奏 「銀河の夢」  
ピアノ：林晶彦（ピアニスト、作曲家）  
朗読 「冬と銀河ステーション」「岩手軽便鉄道の一月」「告別」

会 費：無料  
申込み：必要  
主 催：宮沢賢治学会イーハトーブセンター、神戸宮沢賢治の会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓  
[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)  
※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

### 【4】プレゼント ☆

---

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『世界を7で数えたら』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.76プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。  
締切は1月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

ある調査、仕事上言われて最もうれしい言葉は、「ありがとう」が断トツ1位。一方で「誰からも感謝されていない」と回答した人が4割に上る。感謝されたい、けど感謝されないのが現実か…。

自主申告、私が思わずにっこりする言われてうれしいお世辞は、  
第1位 孫と二人でいて、「お父さん！」（私は得意気に否定する）、  
第2位 肩が痛いと言えば、「五十肩？」（医者は即座に否定した）。  
いや、皆さんありがとう、お気遣い感謝します…。 (A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで  
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp  
^☆^